シラバス参照

科目名	公立文化施設論
配当年次	3年次
開講期間	後期
単位数	2
担当教員	土屋　正臣(ツチヤ　マサオミ)
期間・曜日・時限・教室	後期 月曜日 4時限 13－307

※	ミュージアムと現代社会
授業の目的・目標	（1）授業の概要 公立文化施設（博物館・美術館・図書館・文化ホール）は、それぞれに多様な背景を持っており、現在の私たちの社会に深く根を下しています。それゆえに、今日の文化を形成する源泉の一つとなっています。この授業では、公立文化施設の概観を通じて、そこに含まれる課題を抽出し、社会と文化の関係について考えていきます。 （2）習得できる力 ・公立文化施設に関わる基礎的な理解が可能となる【知識・理解】 ・歴史や文化等、多領域にわたる知識や情報を組み合わせながら、公立文化施設の背景にある課題解決を目指すことができる【汎用的技能】 ・公立文化施設が抱える課題解決を通じて、社会の一員としての自覚を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる【態度・志向性】 （3）授業の到達目標 ・公立文化施設が抱える課題を歴史的な文脈を踏まえて思考できるようになる。 ・社会と文化の関係について独自の見解を述べることができるようになる。 ・このことをもって、ディプロマポリシーの「広い教養と深い専門的な知識や技能を備え、地域社会や国際社会で活躍できる能力」の習得を目指す。
準備学習等の指示	・授業に関する連絡や課題の提示・提出、履修者とのコミュニケーションについては、webclassを使用します。 ・1回の授業につき4時間の準備・ふりかえり学修を実施すること。各回授業の最後に提示する参考文献を次の授業の前までに読み込んでおいてください。 ・各授業の最後に各人が調べた身近な文化行政について小論文を作成してもらいます。各回の授業の最後にwebclassに、この小論文をアップロードしてください。この小論文提出をもって出席とみなすため、webclassの出席ボタンを押しただけでは出席と認めません。 ・小論文作成に当たっては、文献検索だけでなく、現地訪問を強く推奨します。現地訪問した証明として、現地で自撮りの写真を撮影し、レポートに添付すること。
講義スケジュール	1 公立文化施設論の全体像　この授業の全体の流れを理解できるようにします。 2 ミュージアム（博物館・美術館）とは何か　調査・収集・展示の意味を理解できるようにします。 3 ミュージアムの歴史（1）　見世物・博覧会　ミュージアムの前提となった見世物や博覧会について理解できるようにします。 4 ミュージアムの歴史（2）　デパート・史跡公園・公立ミュージアム　多様なミュージアムのあり方についての知識を習得できるようにします。 5 地域コミュニティとミュージアム　地域再生・観光資源・記憶装置・市民参加　地域コミュニティとミュージアムの関わりについて理解できるようにします。 6 公立ミュージアムと表現の自由　富山県立近代美術館事件・バッタもん事件　公立ミュージアムが抱える現代的課題とその背景について理解し、態度や志向性を身に付けます。 7 図書館とは何か　情報政策としての図書館　図書館の基本的な知識を習得します。 8 図書館の歴史　今日の図書館が歩んできた歴史的背景を理解し、そこに含まれる課題解決について議論を深めることができるようにします。 9 公立図書館の現状と課題　配架図書は誰が選択するのか　公立図書館が抱える今日的課題について理解することができるようにします。 10 公立文化ホールとは何か　公立文化ホールの基本的な知識を習得できるようにします。 11 文化ホールの成り立ち　公会堂・劇場・音楽堂　文化ホールを支える歴史的背景について理解できるようにします。 12 芸術文化振興と文化ホール　文化芸術振興基本法・劇場法　文化ホールを支える法制度について理解し、そこに含まれる課題について議論を深めることができるようにします。 13 公立文化施設と法　指定管理者制度・博物館法・図書館法　公立文化施設を規定する法制度と実際の現場が抱える課題について理解ができるようにします。 14 行政改革と公立文化施設　自治体合併・自治体文化行政の問い直し　行政改革における公立文化施設の変革を理解し、今後の公立文化施設のあり方について議論を深めるようにします。 15 まとめ　この講義全体をふり返り、公立文化施設が抱える諸問題についてより理解を深めることを目指します。
教科書	特に用いません。
参考文献	河島伸子・小林真理・土屋正臣（2020）『新時代のミュージアム―変わる文化政策と新たな展開』ミネルヴァ書房
授業の方法	・講義後、その内容に基づく受講者全員でのディスカッションを行います。 ・ディスカッションについては、対面授業であってもZOOM等によりチャットで受講者は書き込み、それに対して随時教員側から新たな問いを投げかけます。
成績評価方法	・期末レポート（30%）、小論文（50%）、授業での発言（20%） ・学期末レポートのみで評価する統括的評価ではなく、学期全体を通した継続的な学習の積み重ねを評価する方法（形成的評価）を採用します。 ・学則にしたがい、欠席回数が5回に達した履修者は、評価の対象にはなりません。

オフィスアワー	授業開始時に指示します
居室	4号館4階418号室
ホームページ	
その他特記事項	・実際の施設を見学する場合もあります。 ・基本的には対面授業で実施するが、ZOOMなどのチャット機能を用いて教室全体で議論することもあります。そのため、受講時にはノートパソコンやタブレット端末を携帯することが望ましいです。
添付ファイル	